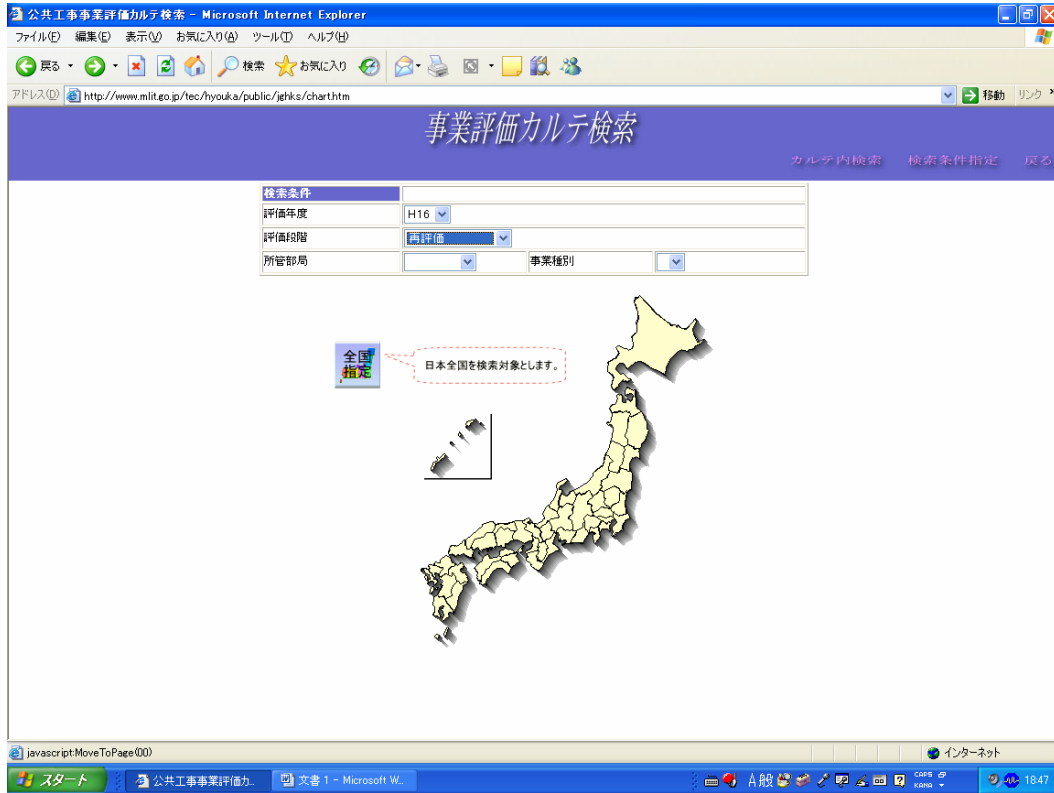


### ③ 事業評価カルテ 事業評価カルテの画面遷移の抜粋

#### 検索条件入力画面



#### 事業リスト



事業評価カルテ

事業評価カルテ検索

カルテ内検索 検索条件指定 戻る

ダム事業

費用便益分析に関するリンク 事業評価監視委員会公開資料

平成16年度	新規採択時評価	再評価	事後評価
事業名(箇所名)	〇〇〇〇ダム建設事業	担当課 河川局治水課 担当課長名 △△△△	事業主体 〇〇地方整備局
実施箇所	〇〇県〇〇市		
該当基準	事業採択後10年間が経過した時点で継続中の事業		
事業諸元	重力式コンクリートダム H=〇〇m L=〇〇〇m 総貯水容量〇〇〇〇千m <sup>3</sup> 有効貯水容量△△△千m <sup>3</sup>		
事業期間	平成〇〇年度実施計画調査着手/平成〇〇年度建設事業着手		
総事業費(億円)	1,000	補正事業費(億円)	〇〇〇
目的・必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水調節(〇〇川、〇〇川沿川の洪水防衛)</li> <li>洪水対策:(〇〇川流域)</li> <li>●〇〇〇〇〇〇 貯水面積〇,000ha 死者〇名 被害家屋〇〇,000戸 被害額〇〇,000百万円</li> <li>●△△△△△ 貯水面積△,000ha 死者△名 被害家屋△△,000戸 被害額△,000百万円</li> <li>●□□□□□□ 貯水面積□,000ha 死者□名 被害家屋□□,000戸 被害額□,000百万円</li> <li>・治水の正常な機能の維持</li> <li>・かんがい用水の確保</li> <li>・水道用水の供給</li> <li>・発電</li> <li>治水対策:過去20年間、農業用水は毎年のように取水が困難</li> <li>●H〇〇〇〇〇〇 最大節水率〇% 〇日間</li> <li>●H△△△△△△ 最大節水率△% △日間</li> <li>●H□□□□□□ 最大節水率□% □日間</li> </ul>		
便益の主な根拠	治水(経済世帯数:約☆,☆☆☆世帯 治水(農地面積:約☆,☆☆☆ha)		
事業全体の投資効率性	基準年度 平成16年度	B:総便益(億円) 〇,000	C:総費用(億円) △,000 B/C 〇.〇 B-C 000 EIRR(%) 〇.〇
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水調節:〇〇川流域では、昭和〇〇年〇月、昭和△年△月、昭和□年□月、昭和☆年☆月に、被害の大きな洪水が発生している。</li> <li>・当該事業の実績により、□□地点において、</li> </ul>		

ページが表示されました

---

事業評価カルテ検索

カルテ内検索 検索条件指定 戻る

事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>を調節し、河道への配分流量を□,000m<sup>3</sup>/sにする。また、他のダム等とあわせて□□地点において、基本高水流量〇〇,000m<sup>3</sup>/sのうち、〇〇,000m<sup>3</sup>/sを調節し、河道への配分流量を□,000m<sup>3</sup>/sにする。</li> <li>・治水の正常な機能の維持:ダム直下で正常流量△,△m<sup>3</sup>/s、□□橋地点で正常流量☆,☆m<sup>3</sup>/s(非かんがい期)を確保する。</li> <li>・かんがい用水:国営かんがい排水事業〇地区、〇〇用水地区より□□川、△△川沿川の約〇〇,000haの農地へ供給する。</li> <li>・水道用水:〇〇広域水道企業団拡張事業へ〇〇〇,000m<sup>3</sup>/日を供給する。</li> <li>・発電:北海道企業局は、新設するシュンパロ発電所により年間発電電力量〇,000Mwh、最大出力〇,000kWの発電を行う。</li> </ul>
社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治水が想定される区域には、〇〇市や主要交通機関(JR、国道)など人口・資産が集積し、流域の社会情勢に大きな変化はない。</li> <li>・地元市町村等で構成される〇〇川水系治水促進協議会等による治水安全度の向上及び水需要の強い要望がある。</li> </ul>
事業の進捗状況	平成〇〇年度に建設着手し、同年度に環境影響評価手続きを終了、共同事業者間の事業基本協定を締結。平成△年度工事用道路に着手、平成□年度には付帯道路工事に着手、用地確保の一般積債を完了。平成□□年8月末現在、進捗率〇〇%。
事業の進捗の見込み	平成☆年ダム基本協定変更、本体基礎掘削着手、平成〇〇年ダム本体コンクリート打設着手、平成□□年試験放水予定。
コスト削減や代替案立案等の可能性	促進策されていた原石を、必要とする条件(強度等)に応じた使い分けを有効活用を図るなど、更にコスト削減を進める。
対応方針	継続
対応方針理由	治水・利水上の事業の必要性等の観点から総合的に判断して、事業を継続することが妥当。なお、治水計画の変更に伴うダム事業計画の変更を、治水計画が確定したい速やかに行う。
その他	-
概要図(位置図)	概要図(位置図)の表示

ページが表示されました

詳しくは、ホームページ参照